

## 『残心 (ざんしん)』をとる！がんばれ3年生！！

10日(金)は山梨県でも朝から雪となり、大雪警報が発令されたため、午後は生徒の安全確保のために下校をさせていただきました。週末は、一転して気温も上がり、春のような陽気でした。今日はまた冬に逆戻りのような気候だそうです。このように三寒四温を繰り返しながら春へと向かっていくことを改めて感じました。先週末、文科省や山梨県教育委員会は、今春実施される卒業式について、換気などの感染対策を施した上で、式典全体を通して生徒・教職員とも、マスクを外すことを基本とするという方針を発表しました。マスクを外すことを容認するが、強制はせず、出席者の意向に配慮を希望してほしいとのこと。本校の3月9日の卒業式については、3年生にとっては「一生に一度の中学校の卒業式」であること、中学校生活の大半をコロナ禍のもとで過ごしてきた3年生に、「みんなの笑顔がわかる卒業式」、「思い出に残るような感動的な卒業式」になるようにしていきたいと考えています。保護者の皆様方にはご理解とご協力をよろしくお願い致します。

さて、『残心 (ざんしん)』という言葉があります。多くの人にとってなじみのない言葉かも知れません。でも、なぎなた部の生徒や武道をしている生徒は、学んだことがあると思います。この言葉は、武道の言葉として古くから伝わる言葉です。現代では、なぎなたなどの稽古中に使う言葉ですから、一般的には知らなくてあたりまえだと思います。この言葉のように、日本人は、様々な分野において、伝統的な武道や芸道から生まれた言葉を活用しています。知っておくと役に立つと思います。



さて、『残心』の言葉の意味ですが、文字通り「心を残す」ということです。しかし、「心残り」という意味ではありません。例えば、なぎなたで言うと(本校のなぎなた部の顧問の伊藤先生に聞きました)相手を正確に打っただけでは、有効な「一本」にはなりません。打っただけではだめなのです。**打った後も姿勢を崩さず、気力は途切れさせず、相手の次のどんな攻撃に対しても対応できる心構え、気構えがあること・・・、これがなぎなたで一本を取るための重要な要素であり、『残心』なのです。**つまり、なぎなたでは、相手を打つことが目標になるのですが、相手を打った後、「放心 (ほうしん) 状態」になってはいけないということなのです。このように考えると、『残心』とは『放心』の逆という意味と考えてもいいかもしれません。

これを現在の3年生に応用してみます。現在3年生は、入試に挑戦しています。私立の推薦入試、公立の前期入試が終わり、これから私立の一般入試、来月には公立の後期入試等と続いていきます。また、少しずつ合格の内定や不合格の結果が届いています。9日(木)には前期入試の合格内定者の発表がありました。このような時期だからこそ、結果がどうであれ、放心状態になってはいけないのです。最終的に合格したり、成長したりする人は、ここで崩れないのです。**それぞれの立場で、自分を見失わずに、「今すべきこと」や「次にすべきこと」を考えて行動してほしいと思います。『残心』とは勇気をだして挑戦した後も気力を途切れさせず、「放心状態」にならず、「さあ来い!」「さあ行くぞ!」という気概で、自分自身を崩さないようにすることです。**合格内定をもらった人は、うれしさでいっぱいですが、その結果は自分の力だけでなしえたものではありません。みなさんは、これまで、仲間とのチームワークと絆でここまでできたのです。「3年生全員の進路決定・全員合格」という目標に向かって、最後まで全員で頑張りましょう。**全員がそれぞれの立場で「今からの自分はどういう態度でいるべきなのか」をしっかりと考えてほしいと思います。一人一人の人間性が問われるときでもあるのです。**不本意な結果の場合もあります。しかし、全力で頑張ってきた自分を否定することはありません。**今回の結果は、進路確定までの通過点に過ぎないわけですから、合格内定、不合格を問わず、全員合格達成、全員の進路決定までは「自分ができること、すべきこと」を判断し、最善の努力を続けていきましょう。**

うららかな春は 厳しい冬の後に来る



可愛い ふきのとうは 霜の下で 用意された (宮本百合子)

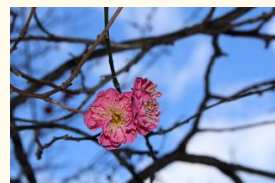
厳しい冬の後には、うららかな春が来ることを信じて、3年生みんなで、入試を乗り越えていきましょう!

## 『行動の美しさ』～人を大切にする力～

昨年の12月に、学校に丁寧なお礼の電話をいただきました。お電話をくださった方は、お医者さんに行こうとバスを降りたそうですが、その道がわからず困っていたそうです。そこに下校のために通りかかった玉幡中学校の3年生の男子4名に道を尋ねたところ、親切にもそのお医者さんのところまで、3年生男子4名が案内をしてくれたそうです。お陰でお医者さんにたどり着くことができたということでした。「優しい生徒さんたちですね。本当に助かりました。」とお電話をいただきました。

また、今年に入り、1月18日(水)に西八幡の空き地に、自動車の前輪2つを誤って脱輪させてしまい、困っていた方がいたようです。たまたま通りかかった方や近所の方々までできて、車を持ち上げようとしていたときに、下校途中の玉幡中学校の1年生の女子5人が通りかかりました。大人に混じり、車をあげるのを手伝おうとしていたときに、さらに2年生の女子2人と3年生男子1人が通りかかりました。大人の方々と一緒に、みんなで力をあわせ、車を持ち上げようとしていました。本校の生徒8人は全員制服で、しかし、汚れるのも気にも留めず、困っている方のためにと力を尽くしていたそうです。結局、車をあげることができず、通りかかった方がレッカー車を呼んでくれ、対応してくださったそうです。その様子を一部始終見ていた方が、中学生8名のその美しい行動力に感動し、学校へ連絡をしてくれました。「玉幡中学校の生徒さんたちは、制服であったにも関わらず、汚れるのも気にせず、困っている人のために一生懸命に頑張っているその姿に感動しました。本当に素晴らしい生徒さんたちですね。そして素晴らしい教育をなさっていますね。」とおっしゃってくださいました。

**これらの玉幡中生の姿から、人間の行動の美しさを感じました。まだまだ寒い日があるとは思いますが、寒さを吹き飛ばすような温かて美しい話だと思えます。私たち玉幡中学校は、これからも「行動の美しさ」を大切にしていきたいと強く思いました。**



## たくさんの賞をいただいています

玉幡中学校の生徒たちが様々な分野で活躍をしてくれています。12月に行われた県アンサンブルコンテストで本校の吹奏楽部8名(2年1組 一之瀬歩美さん 石田侑愛さん 赤池一真さん 原優二郎さん 2年2組 武田茉依さん 2年3組 伊藤七海さん 大森しずくさん 矢崎蒼空さん)が管打楽器八重奏の演奏を行い、金賞を受賞し、埼玉県で行われた西関東大会へ出場しました。結果は銅賞でしたが、練習の成果を発揮し、素晴らしい演奏となりました。



また、既に紹介させていただきましたが、3年3組の勝村陽葉さんが今年度の中巨摩英語部唱大会で優勝し、県大会へ出場しました。伝統ある中巨摩英語部唱大会で本校の生徒が優勝したのは勝村さんが初めてということで、2学期の終業式で全校生徒の前で発表をしてもらいました。引き込まれるような素晴らしい発表でした。また令和4年度中学生の「税についての作文」では、3年2組三井愛夢さんが『甲府税務署長賞』、3年3組勝村陽葉さんが『山梨県納税貯蓄組合総連合会長賞』、3年3組田中美有さんが『甲府間税会会長賞』をそれぞれ受賞しました。なお、三井愛夢さんについては昨年12月15日(木)に「一日税務署長」を務めました。三井さんには、3学期の始業式で『税を大切に』という受賞した作文を全校生徒に披露してもらいました。このように本校の生徒の素晴らしい活躍がありました。

